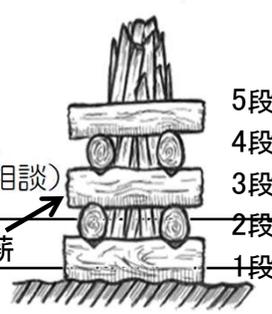


キャンプファイヤー

2025年度版

ねらい 内 容	中央の燃えさかる炎を中心に、歌やゲームや各班の出し物などを行い、参加者相互の交流や親睦を深めるとともに、自然に親しむ心や連帯感、協調性、団結心を養う。なお、始めの点火の儀式や終わりの消火の儀式を演出するとより効果的である。	
対 象	幼児～	
期 間	5～10月 ※11～4月については乾燥や強風のため安全の確保が困難となり原則実施できません。	
人 数	200名	
集合場所	自由	
活動時間	2時間（内容によって変化）	
活動場所	第1、2、3、4、5営火場	
費 用	4,000円【セット内容：ファイヤー用薪・セツパ（明かりとり用薪）・灯油】	 
持ち物	トーチ棒、演出用CD及び楽器類	薪組例：井桁型
貸出品	衣装、アンプ、マイク、CDデッキ、消火用金バケツ	
施設職員	説明： なし 団体の指導者主体で実施してください。 貸出品が必要な場合、職員にお申し出ください。	対応： なし
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天気、特に風の方向や強さに注意する。 ・ 雨天、強風等、当日の天候により中止をお願いする場合がありますので、必ず代替プログラムを用意しておく。 ・ <u>薪は灰になるまで燃やしきり、所定の灰捨て場へ捨てる。</u> ・ <u>※22時消灯のため、それまでは指導者が残火の管理をしてください。</u> ・ <u>消灯時間までに鎮火しない場合に限り、水を使用して消火してから</u> ・ <u>宿泊場所にお戻りください。</u> ・ 翌日の点検までに使用した営火場の清掃をおこなう。 	

指導者の支援活動（例）

- 1 営火長 1人
（はじめの言葉 終わりの言葉）
- 2 火の守 1人
- 3 音楽係 1人

子ども達の活動（例）

- 1 司会者 1～2人（司会、進行、歌、ゲーム等の進行）
- 2 火の守 4人（男女2人）（薪への点火、分火等）
- 3 送火係 1人（トーチの入退場等）
- 4 誓いの言葉 1人

■活動展開例

徐々に盛り上げる

徐々に盛り下げる

準備 リハーサル	第1部（迎火の儀）	第2部 親睦、交歓（歌・ゲーム・各班の出し物）	第3部（送火の儀）	片づけ
-------------	-----------	-------------------------	-----------	-----

- ・ 第1部と第3部は私語をつつしみ、厳粛な雰囲気の中で行う。
- ・ 各班の出し物は5分程度で実施する。
 - ① 班全員が参加し、自分勝手な行動は慎む。
 - ② ユーモアに富み、健康的でかつ上品であり、自ら創作したものが望ましい。
 - ③ 他の班の演技は全員で鑑賞し、口笛や冷やかしかしはやめ、拍手で出来映えをたたえる。

キャンプファイヤー 展開例

第1部 迎いの火の儀式

1 全員入場

- 静かに入場し、各班ごとに火床を中心に円形に立つ。
- 司会者は、キャンプファイヤーの意義やルールについて説明する。※別紙「例1」
- 私語はしない。
- ※営火長・送火者・火の守は準備をし、配置につく。

2 夜の歌

- 「遠き山に日は落ちて」を歌詞で歌い、続いてハミングで歌う。

3 灯の入場

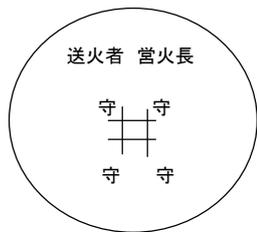
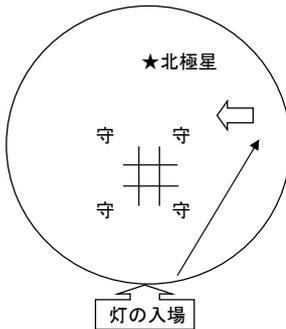
- ハミングになったら灯が入場する。
- ※送火者がトーチを持ち、送火者を先頭に、営火長が入場する。

4 司会者の開会の言葉

- ※別紙「例2」
- 送火者は、営火長をトーチの明かりで照らす。
- 営火長は火に関すること、研修の目的や成果、友情、生命、平等について2～3分感銘を与えるように話し、開会を宣言する。※別紙「例5」

5 火の守へ分火

- 送火者は、火の神にトーチを渡す。
- 火の守は、火の神の前に整列する。



6 火の守の誓いの言葉

- 火の守は、分火を受けたら立ち上がりトーチを右手に高く掲げながら、誓いの言葉を述べる。
- 誓いの言葉は、友情、情熱、生命、平和、理想、奉仕、規律などをヒントにする。※別紙「例3」
- 営火長が4人の守に分火を終えたら、火の係4人は点火の

7 点火

- 営火長の点火の合図で点火する。
- 営火長、送火者、火の守は元の場所に戻る。

8 歌

- 「燃えろよ燃えろ」を3番まで歌う。

9 歌

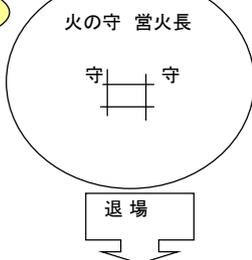
- 引き続き楽しい第2部に入れるよう、楽しく愉快的な歌を歌う。

10 火の係退場

- 歌が2番になったら、火の係は静かに退場する。

第2部 交歓の集い

- 各班のスタンプの発表する。
- 歌、ゲーム、フォークダンス等誰でも知っているものや、全体でできるものを取り入れる。
- ユーモアに富んだ効果的な演出をする。



第3部 送りの火の儀式

1 準備

- 営火長・送火者・火の守は配置につく。

2 歌

- 2部の楽しい雰囲気から、3部の儀式に気持ちを落ち着かせるような歌が良い。「ふるさと」、「シャロム」、「遠い世界に」



3 消火

- 静かな歌の間に、火の守は火勢をおさえる。
- 送火者は、火床からトーチに採火する。

4 営火長の閉会の言葉

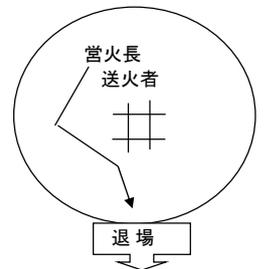
- 送火者は、営火長をトーチの明かりで照らす。
- ※別紙「例4」

5 歌と営火長退場

- 「今日の日はさようなら」を歌う。
- 歌が2番になったら送火者を先頭にゆっくり退場する。

6 全員退場

- 班ごとに静かにサイトに帰る。

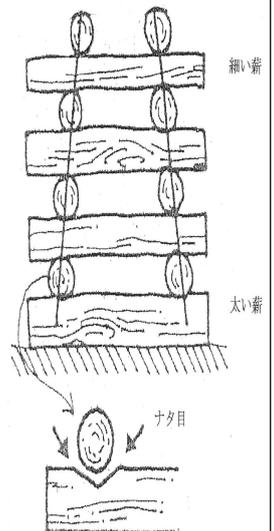


・井桁型

最も一般的な薪の組み方です。しっかりした太い薪から順番に井桁に組みます。下から3段くらいは燃えにくい木や、組む前に充分水に浸しておいた薪を用います。やや下段か中段に火格子（すのこ、ロストル）を入れ、小型の薪や枝など火のつきやすい物をその上に空気の流れを考えながら組み上げます。

下から徐々に内側になるように組んでいくことで、薪が燃え尽きて崩れても、内側に崩れていくので安全面においても配慮することができる！！

また、薪を組む際に右の図のように、なたで丸くぼみをつけて、その上に薪を乗せる事で全体が安定し、崩れにくくなります。



キャンプファイヤー 言葉例

例1 キャンプファイヤーの意義、ルール

○例1-1

キャンプファイヤーは第1部、第2部、第3部の順で行われ、第1部は火を迎える儀式で、トーチで中央の井桁に点火をします。

第2部は、火を囲んで親睦を深め合う楽しい一時です。

第3部は、火を送る終わりの儀式です。

第1部と第3部は儀式ですので、絶対私語は慎み厳粛に行います。もし違反者があると、そのとたん儀式の意味がなくなってしまう。儀式では、司会者の言葉を、できるだけ理解していく気持ちで、また、日頃を反省してみたり、これからの「真の人間としての生きざま」を考えてみたりする機会としてほしいと思います。

○例1-2

体も心も洗い清められるような八ヶ岳高原の大自然の中にあり、自然に親しみながら…(利用のねらい…)ただいま自然の家で暮らしているのです。お父さん、お母さん、そして先生たちが「君たち」〇〇生に対しての期待が大きいからなのです。それは、これからの生活において、どんな困難にぶちあたっても、それに打ち勝ち、強く、明るく、正しく、そして美しい生活を送ってほしい、そして、君たちがもっともっと良い子になってほしい、という愛があるからだと思います。そのような意味において、今夜のキャンプファイヤーは精一杯のことをやってみたいと思います。それでは、友情の灯火が入場して参ります。

例2 司会者の開会の言葉

○例2-1

今、火の守によって運ばれてきたこの火は、数分前まで何も見えなかった集いの輪に、ほのかな明るさを与えたことと思います。火は、遠い昔から私たちに生きることの喜びや勇気を与えてくれたものです。火は、自らを焼きつくしながら光と熱とを私たちに与えてくれます。火は、私たちの生命ともいえるものです。このことは、数千年の昔から私たち祖先が火を守って、ある時は獣や外敵から身を守ったり、物をつくることを教えたり、また、明るくすることを考えたりしてきました。私たちは、この暗夜に光りを与える炎のように、世界のすべてに明るさと希望を与えることを、共に誓いたいと思います。

○例2-2

私たちは、暗闇の中に静かに火が入場した時、ある種の安らぎを覚えました。それは、一人ひとりの願いがはっきり見えたからです。私たち若人の情熱が燃えているからです。この火のように、私たちは若人の情熱をたぎらせ、温かい友情と心のふれあいで、多くの仲間と共に良い社会を築くことを誓いあいたいと思います。

例3 営火長の分火の言葉及び火の守の誓いの言葉

○分火の言葉

- ・物事の成功は多くの人の協力によるものです。協力の火を与えます。
- ・努力なくして感動は得られません。常に努力を続けるように、努力の火を与えます。
- ・人は心身ともに健康でなくてはなりません。健康な体で今後も学ぶために健康の火を与えます。

○誓いの言葉

- ・私たちは、心を合わせて友情を大切にします。
- ・私たちは、規律を守り良い習慣を身につけます。
- ・私たちは、燃えさかる炎のように強く逞しい情熱と意志をもち続けることを誓います。
- ・私たちは、火が人々をも温かくなぐさめるように、お互いに優しく抱き、いたわり、友情を更に高めることを誓います。

キャンプファイヤー 言葉例2

例4 営火長の閉会の言葉

○例4-1

一つの火は小さくとも、それが集まった時には、偉大なものになることを学びました。この研修で、この八ヶ岳少年自然の家で得たものは、小さなものかもしれません。しかし、それが集まった時、大きな力となり、大きな仕事ができるでしょう。心にともった火は小さくとも、一生大事に持ち続けようではありませんか。さあ、新しい希望に向かって歩きだしましょう。

○例4-2

楽しい集いの間、私たちを見守ってくれた炎は今静かに消えてゆこうとしています。炎は、私たちの胸にいつそう激しく青春の情熱と仲間意識を残してくれたことと思います。青春は、時には辛くさびしく、また、時には悲しく涙することもあるでしょう。しかし、この集いで得た限りない感動と明るく躍動する仲間たちとの絆を思いおこせば、また明日からの力強い勇気も湧いてくると思います。ここに集いを閉じるにあたり、皆さんの健康と発展を祈りながら、最後に、皆さんとともに私たちに感動を与えてくれた全てのものに感謝と敬意の拍手をおくろうではありませんか。

例5 火についての話

○例5

人間と動物の違いはなんでしょうか。その違いはいろいろありますが、大きな違いは、私たち人間が「文化」というものを持っていることです。そのシンボルが「火」なのです。火を自然の中から取りだして使えるようにした人間は、その火のおかげで明かりを得、暖かさを得、物を美味しく食べる方法を得ました。ここに動物との決定的な違いが生まれたのです。「火」は、ありがたいものです。人間の生活に絶対欠かすことができません。しかし、火は恐ろしいものでもあります。そう火事、皆さん火を大切にしようではありませんか。